

4. 穂ばらみ期の障害型耐冷性は「きらら397」より強く「ほしのゆめ」と同じ強である。葉いもち病抵抗性、穂いもち病抵抗性はやや弱である。耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量はほぼ「きらら397」並で「ほしのゆめ」に優る。
6. 玄米の粒形は「きらら397」「ほしのゆめ」並のやや長、粒大は「きらら397」「ほしのゆめ」よりやや大きいやや大である。粒厚は「きらら397」より薄く「ほしのゆめ」並である。千粒重は「きらら397」並で「ほしのゆめ」より重い。腹白の発生は両品種よりやや多いが、心白・乳白の発生、色沢、光沢は両品種並で、

玄米品質はほぼ両品種並の中上である。食味は「きらら397」に明らかに優り「ほしのゆめ」並からやや優る。

栽培適地と奨励態度

檜山南部、渡島中・南部及びこれに準ずる地帯の「きらら397」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は、いもち病抵抗性がやや弱いので、その発生に注意し適正防除に努める。倒伏や干ばつにより粒厚が薄くなることがあるので、多肥栽培は避け「施肥標準」を厳守し、登熟期の水管理に留意する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道 南 農 試	ふっくりんこ	8. 3	9.23	73	16.1	634	54.4	98	22.3	1下	1999～2002
	きらら397	7.31	9.22	69	15.8	599	55.7	100	22.1	2上	
	ほしのゆめ	7.29	9.18	72	15.2	655	51.8	93	21.3	2中上	
	ななつぼし	7.31	9.20	74	16.2	584	54.8	98	21.5	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 4-6 (2003).

2. 小麦

- (1) きたもえ (系統名 北見72号) 2000年
登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第14号
(農水省) 小麦農林149号
(種苗法) 第11237号

セールスポイント

コムギ縮萎縮病抵抗性、穂発芽耐性に優れ、粉色とゆでうどんの色に優れる秋まき品種である。

来歴 本品種は、1985年に北海道立北見農業試験場において、「59045 (後の「ホクシン」)」を母、「北系1354」を父として人工交配を行い、育成したもので、1992年より「北系1616」、1994年より「北見72号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

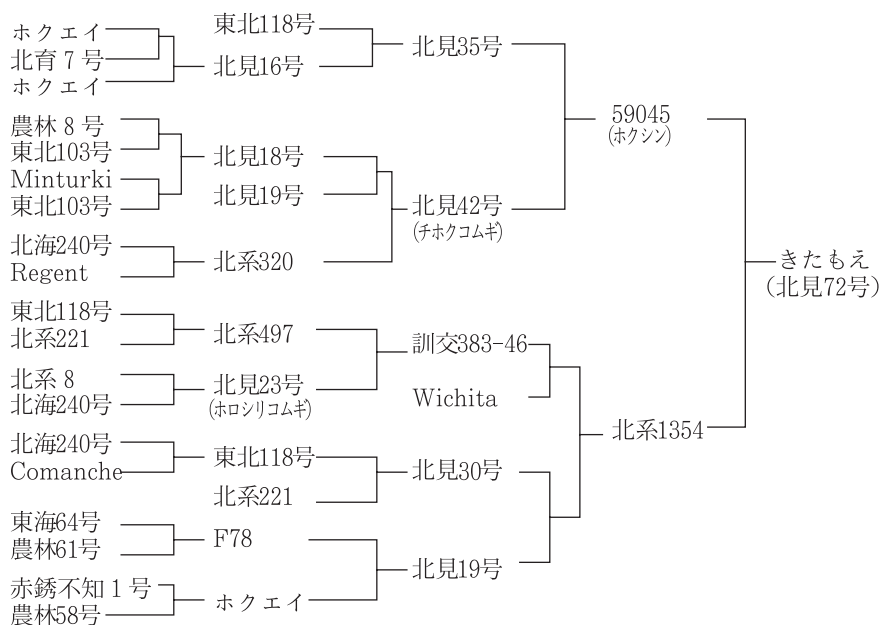
1. 叢性は直立で、稈長はやや短、稈の細太は中で「ホクシン」よりやや細く、「チホクコムギ」並、ワックスの多少は少である。葉身の下垂度は「ホクシン」よりやや小さく、穂型は棒状、ふ色は淡黄である。
2. 粒形は中、粒の大小はやや大、粒色は黄褐で、千粒

重はやや大、容積重、原麦粒の見かけの品質は「ホクシン」と同等である。

3. やや早生に属するが「ホクシン」と比較して出穂期で2日、成熟期で2日遅い。
4. 耐倒伏性は「ホクシン」並、耐寒性、耐雪性は「ホクシン」並、コムギ縮萎縮病抵抗性は「ホクシン」より強いやや強、赤さび病抵抗性はやや弱、うどんこ病抵抗性はやや強である。黒目粒は少なく、穂発芽性は「ホクシン」より強くやや難である。
5. 子実重は「ホクシン」並である。
6. 製粉歩留、ミリングスコアは「ホクシン」と同程度かやや高い。粉色は「ホクシン」より優れ、粉質は粉状質、蛋白含量は「ホクシン」並である。製めん適性は「ホクシン」と比較して色は優れるが、粘弾性はやや劣る。

栽培適地と奨励態度

北海道内のコムギ縮萎縮病発生地帯において「ホクシン」に置き換えて栽培する。栽培に当たっては、縮萎縮病抵抗性は「ホクシン」より強いが、免疫的な抵抗性は有していないため、適正な輪作体系の維持に努める。耐



穂発芽性は「ホクシン」より強いが、刈遅れによる品質低下の懸念があるので、適期収穫を励行する。他の病害・

障害抵抗性、および子実蛋白含量は「ホクシン」並なので、播種・防除・施肥管理は「ホクシン」に準ずる。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北見農試	きたもえ	6.14	7.28	89	7.2	789	微	557	103	789	36.8	上下	1995～
	ホクシン	6.12	7.26	89	8.3	758	少	541	100	790	36.3	上下	1999
中央農試	きたもえ	6.10	7.22	85	7.2	599	少	506	96	776	38.9	上下	1995～
	ホクシン	6.6	7.20	88	8.4	622	少	526	100	780	38.9	上下	1999
上川農試	きたもえ	6.12	7.18	85	7.5	672	微	549	96	771	39.3	上下	1995～
	ホクシン	6.9	7.17	87	8.5	640	微	570	100	774	38.9	上下	1999
十勝農試	きたもえ	6.10	7.24	87	7.0	605	無	527	101	783	38.4	上下	1995～
	ホクシン	6.7	7.22	89	8.1	592	無	520	100	778	39.7	上下	1999
遺伝資源 センター	きたもえ	6.11	7.18	76	6.8	539	無	414	98	801	37.0	上中	1995～
	ホクシン	6.9	7.17	77	7.7	519	無	422	100	797	37.2	上中	1999

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-27 (2000).
2) 柳沢 朗等, 北海道立農試集報. 82, 11-20 (2002).

(2) はるひので (系統名 北見春59号) 2000年
登録番号: (北海道) 小麦北海道春第15号
(農水省) 春播小麦農林150号
(種苗法) 第11238号

セールスポイント

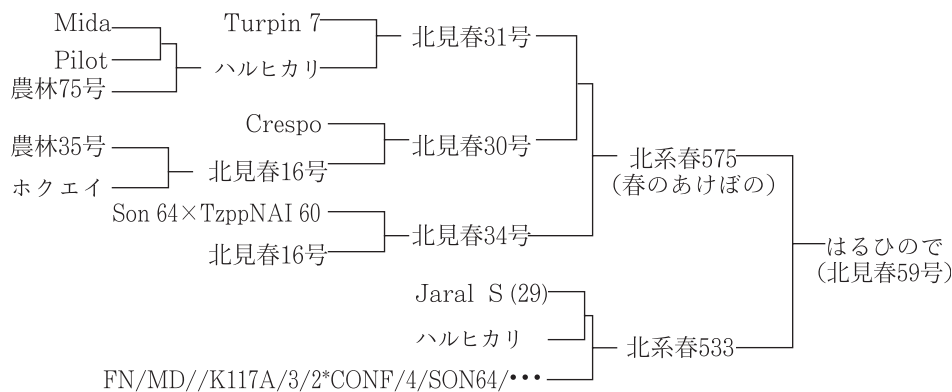
赤かび病抵抗性, 耐倒伏性, 製パン適性に優れる春まき品種である。

来歴 本品種は, 1986年に北海道立北見農業試験場において, 「北系春575」(後の「春のあけぼの」) を母, 「北系春533」を父として人工交配を行い, 育成したものである。1994年より「北系春669」, 1996年より「北見春59

号」の系統名で各種試験を行い, 2000年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 葉色はやや濃く, 葉身の下垂度は小さく, 株は閉じている。鞘葉の色を有し, 葯の色は紫である。葉鞘, 稈のワックスおよび毛は無く, 稈長はやや短, 穂長は中, 稈の細太は中, 稈の剛柔はやや剛である。
2. 穂型は紡錘状, 粒着はやや密, 芒は多く長い。ふ色は黄である。
3. 粒形は中, 粒大はかなり大, 粒色は赤褐である。粒の黒目の発生は「ハルユタカ」より多い。千粒重, 容積重は「ハルユタカ」より大きく, 原麦粒の見かけの品質は「ハルユタカ」より優る。



4. 出穂期、成熟期は「ハルユタカ」と同程度で中生に属する。穂発芽性はやや難、耐倒伏性は強、赤かび病抵抗性は中、うどんこ病抵抗性はやや弱、赤さび病抵抗性は中である。
5. 子実重は「ハルユタカ」より多収である。
6. 粒の硬軟はやや硬、粒質は硝子質で、60%粉粗蛋白含量は「ハルユタカ」と同程度、製粉歩留は「ハルユタカ」よりやや低く、ミリングスコアは同程度のやや高である。
7. フェリノグラムの吸水率は「ハルユタカ」より高く、バロリーメーターバリューは高い。エキステンソグラ

ムの生地力の程度は大で、伸長抵抗は強、伸長度は中、形状係数は大である。製パン適性は「ハルユタカ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道内の「ハルユタカ」の一部に置き換えて栽培する。融雪後できるだけ早期に播種し、成熟期を早め、収量・品質の向上を図る。穂発芽性はやや難であるが、刈り遅れによる品質低下や黒目粒発生の増加が懸念されるので、適期収穫を励行する。うどんこ病に対する抵抗性は不十分なので、適期防除に努める。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北見農試	はるひので	7. 2	8.15	86	8.5	509	無	405	108	771	39.5	中上	1996～
	ハルユタカ	7. 3	8.15	87	8.4	554	微	375	100	761	35.3	中中	1999
中央農試	はるひので	6.26	8. 6	79	8.5	438	無	265	112	778	40.6	中上	1996～
	ハルユタカ	6.27	8. 5	80	8.7	423	無	237	100	744	34.0	中中	1999
上川農試	はるひので	6.25	8. 6	83	8.4	526	微	439	101	778	42.4	上下	1996～
	ハルユタカ	6.27	8. 6	86	8.6	546	微	434	100	751	36.9	中上	1999
十勝農試	はるひので	6.28	8. 9	85	8.1	484	無	330	106	762	41.5	中上	1996～
	ハルユタカ	6.29	8.10	87	8.1	438	無	312	100	715	34.5	中上	1999

注) 北見農試はドリル播きの成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 28-30 (2000).
2) 田引 正等, 北海道立農試集報. 82, 21-30 (2002).

- (3) 春よ恋 (系統名 HW 1 号) 2000年
登録番号: (北海道) 小麦北海道春第16号
(種苗法) 第8834号

セールスポイント

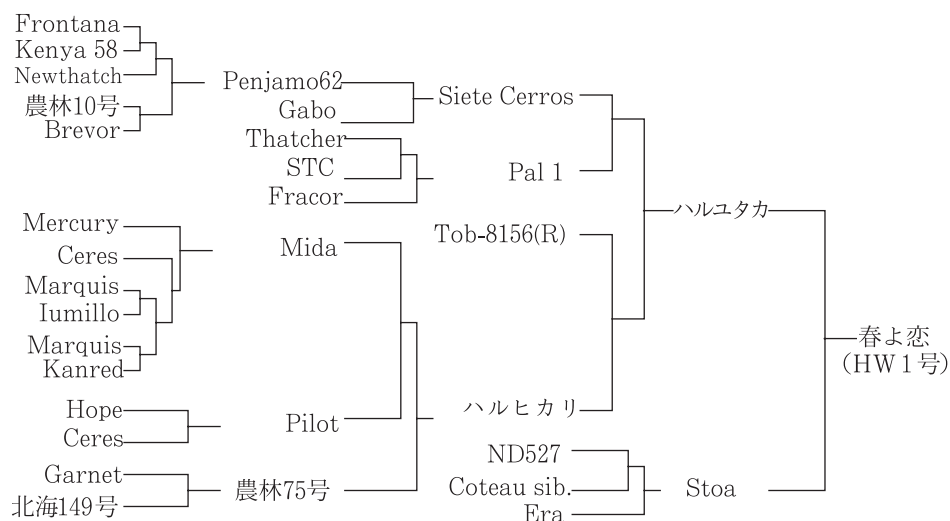
うどんこ病、赤かび病抵抗性に優れ、製パン適性に優れた多収な春まき品種である。

来歴 本品種は、1989年にホクレン農業総合研究所において「ハルユタカ」を母、「Stoa」を父として人工交配

し、1990年にF1植物の葎を培養して作出した半数体倍加系統から選抜、育成されたものである。1995年より「90DH22-22」、1996年より「HW 1 号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 葉色はやや薄く、株は閉じている。ワックスはなく、葉にわずかにフレッケンを生じ、生理的に色が抜ける場合がある。稈長は中で「ハルユタカ」よりやや長く、



穂長は中、穂数は「ハルユタカ」並かやや多い。稈の細太及び剛柔は中である。

2. 穂型は紡錘状で、粒着はやや密、芒は多くて長い。ふ色は黄である。
3. 粒形は「ハルユタカ」よりやや長く、千粒重、容積重は「ハルユタカ」より重い。外観品質も「ハルユタカ」より優れる。黒目粒の発生は「ハルユタカ」よりやや多い。
4. 出穂期、成熟期がほぼ「ハルユタカ」並の中生である。耐倒伏性は「ハルユタカ」と比べると劣る。うどんこ病抵抗性は強く、赤さび病抵抗性はやや強、赤かび病抵抗性は「ハルユタカ」より優れている。穂発芽性は「ハルユタカ」よりやや強い。

5. 子実重は「ハルユタカ」より多く、かなり多である。
6. 粒は硬く、粒質は硝子質である。製粉性は「ハルユタカ」より劣る。60%粉の粗蛋白含量は「ハルユタカ」並である。フェリノグラムの吸水率は「ハルユタカ」よりも高く、バロリーメーターバリューもやや高い。生地力の程度はかなり大、伸長抵抗はかなり強、生地の伸長度は中、形状係数はかなり大である。製パン適性は「ハルユタカ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

全道の「ハルユタカ」の一部に置き換えて栽培する。耐倒伏性が劣るので標準播種量（340粒/㎡）および施肥標準を守り、密植や過度の窒素の施用は避ける。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北見農試	春よ恋	7.2	8.14	95	8.5	532	2.5	422	113	768	38.1	中上	1996～
	ハルユタカ	7.3	8.14	87	8.4	554	1.0	375	100	761	35.3	中中	1999
中央農試	春よ恋	6.27	8.6	87	8.7	456	0.3	293	124	777	36.5	中上	1996～
	ハルユタカ	6.27	8.5	80	8.7	423	0.2	237	100	744	34.0	中中	1999
上川農試	春よ恋	6.27	8.6	93	8.6	550	2.0	470	108	774	37.1	—	1996～
	ハルユタカ	6.27	8.6	86	8.6	546	0.7	434	100	751	36.9	—	1999
十勝農試	春よ恋	6.29	8.9	93	8.4	465	0.0	353	113	747	36.4	上下	1996～
	ハルユタカ	6.29	8.10	87	8.1	438	0.0	312	100	715	34.5	中上	1999

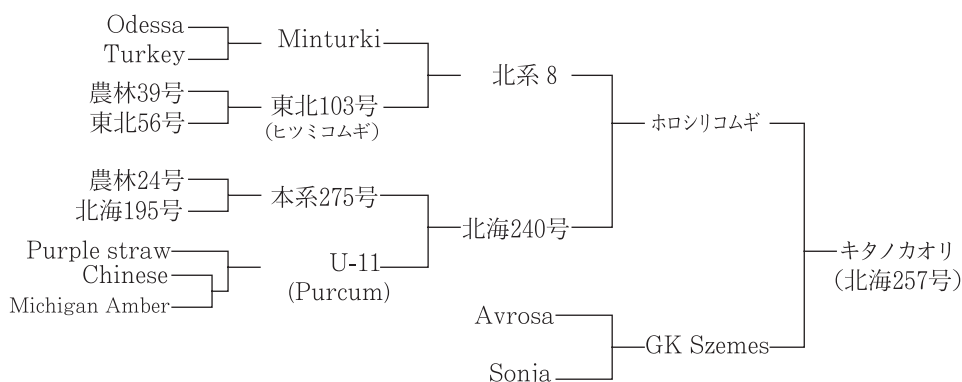
参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 31-33 (2000).

- (4) キタノカオリ (系統名 北海257号) 2003年
登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第17号
(農水省) 小麦農林158号
(種苗法) 第11095号

セールスポイント

製パン適性に優れた秋まき品種である。

来歴 本品種は、1988年に農林水産省北海道農業試験場において、「ホロシリコムギ」を母とし、「GK-Szemes」を父として人工交配を行い、育成したものである。1996年より「札系226号」、1998年より「北海257号」の系統名で各種試験を行い、2003年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 叢性は直立，株の開閉はかなり閉である。稈長は短，稈の細太はかなり太，葉色はやや淡，ワックスの多少は少，芒はなく，ふ色は淡黄である。
2. 穂型は棒状，穂長はやや長，粒着は密である。粒の形は中，大小は大，色は褐，千粒重は大，容積重はやや大，原麦粒の見かけの品質は中の上である。
3. 出穂期はやや晩，成熟期は中で「ホクシン」より遅い。
4. 耐倒伏性は強く，耐寒性は中，耐雪性はやや強，コムギ縞萎縮病抵抗性は弱，赤かび病抵抗性は中，うどんこ病抵抗性は強，赤さび病抵抗性はかなり強，穂発芽性は中である。
5. 子実重は中で「ホクシン」よりやや少ない。
6. 粒質は硝子質，製粉歩留及びミリングスコアは中，

60%粉粗蛋白質含量はやや多，粉の明度及び粉の赤色みは中，粉の黄色みはかなり高，吸水率は高，バロリーメーターバリューはやや高，生地の力の程度はやや大，生地の伸長抵抗は強，生地の伸長度は中，生地の形状係数は大である。製パン適性は「ホロシリコムギ」，「ハルユタカ」より優る。

栽培適地と奨励態度

全道の秋まき小麦栽培地帯の「ホクシン」の一部に置き換えて栽培する。耐雪性は「ホクシン」と同じやや強であるが，多雪地帯での冬損程度がやや多い傾向があるので，適切な管理に努める。赤かび病抵抗性，穂発芽性は必ずしも強くないので，防除の徹底と適期収穫を励行する。パン用であるので，蛋白質含量が低くならないように肥培管理に努める。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北農研 センター	キタノカオリ	6.12	7.25	75	9.0	604	0.0	586	96	812	41.3	2.5	1998～ 2001
	ホクシン	6.6	7.20	83	8.4	621	0.5	607	100	796	38.1	2.5	
	ホロシリコムギ	6.10	7.23	95	8.5	654	1.3	600	99	792	42.2	2.8	
中央農試	キタノカオリ	6.8	7.22	85	8.8	532	0.0	589	101	793	44.1	3.0	1998～ 2001
	ホクシン	6.2	7.17	88	8.6	608	0.2	583	100	784	39.8	2.5	
遺伝資源 センター	キタノカオリ	6.11	7.21	75	8.8	431	0.0	475	91	802	43.7	3.0	1998～ 2001
	ホクシン	6.5	7.15	79	8.1	570	1.5	525	100	802	39.3	1.9	
上川農試	キタノカオリ	6.11	7.23	74	9.2	407	0.0	567	89	774	43.1	2.3	1998～ 2001
	ホクシン	6.5	7.17	80	8.2	528	0.0	634	100	770	41.0	1.8	
十勝農試	キタノカオリ	6.11	7.25	81	9.2	485	0.0	553	96	805	41.8	2.8	1998～ 2001
	ホクシン	6.5	7.19	86	8.5	530	0.3	577	100	800	38.6	2.4	
北見農試	キタノカオリ	6.13	7.28	79	9.3	502	0.0	493	92	817	41.3	2.3	1998～ 2001
	ホクシン	6.8	7.22	82	8.3	618	0.0	535	100	806	39.4	2.3	

注) 外観品質は1 (上上) ～ 6 (下)。

参照 1) 北海道農政部編，平成15年普及奨励ならびに指導参考事項，7 - 9 (2003)。